

■大塚楠緒子 <日露戦争>出征家族の気持ちを歌った長詩「お百度詣」で、与謝野晶子の「君死に給ふこと勿れ」と並称。

おおつかくすおこ

初の民間工場1875=

東京市麹町区一番町で、土佐藩士の出の裁判官大塚正男の長女に生まれ、

名古屋・宮城・東京の控訴院長を歴任するなど、父の地方転勤が続くなか、東京に留まって、文学好きの賢夫人の母に育てられ、

明治14年政変1881= 6歳：富士見小学校に入学、

小説を読みふけるようになり、貸本屋の巡回を待ち望む。

秩父事件・・・1884= 9歳：

初の対等条約1888=13歳：一ツ橋の共立女子職業学校に入学、四条派の絵と刺繍を習う。

帝国憲法発布1889=14歳：矢田部良吉が校長をつとめハイカラで知られた一ツ橋東京高等女学校に転校、

帝国議会始・1890=15歳：東京女子高等師範学校付属高等女学校となって、良妻賢母主義の教育を受ける一方、_母伸子とともに竹柏園に入門し、佐佐木弘綱・信綱について和歌を学び、画を橋本雅邦に学んだ。

足尾鉉毒始・1891=16歳：_弘綱死去後は、子の信綱に終生師事する。

郡司千島探検1893=18歳：女学校を首席で卒業。

日清戦争始・1894=19歳：_(婦人雑誌)に処女作「応募兵」を発表。

日清戦争終・1895=20歳：夏目漱石の親友の群馬県人で東京専門学校で美学を講義していた小屋保治を迎えて結婚。*(太陽)に「泣くな我子」という軍歌を発表、戦地にあった将校が作曲させ、大流行となる。漱石の指導をうけて小説を書きはじめ、{文芸倶楽部}の臨時増刊「閨秀小説」号に既に一流となっていた作家に混じって、「暮ゆく秋」を発表、女流作家として期待される。以後鳴外やゲーテ、ハイネの浪漫主義文学の洗礼をうける。

松隈内閣・・・1896=21歳：夫がドイツに留学後、長女を出産。{文芸倶楽部}に「いつ迄草」を発表する一方、それぞれ師について、英語やピアノ・絵画を学ぶ。明治女学校でも聴講し、相馬黒光と同窓となる。

八幡製鉄始・1897=22歳：*{文芸倶楽部}に「しのび音」を発表して文壇に知られ、稲舟・一葉を失ったばかりの閨秀作家を継ぐ。

ピアノ国産化・1900=25歳：夫が帰国し、東京帝国大学の日本人教授として初めて美学・美術史を講じる。

教科書疑獄・1902=27歳：

日露戦争終・1905=30歳：*(太陽)に出征家族の気持ちを歌った長詩「お百度詣」を発表、「ひとあし踏みて夫思ひ、ふた足国を思へども、三足ふたたび夫おもふ、女心に答ありや」は、前年発表された与謝野晶子の「君死に給ふこと勿れ」に並ぶものとして、詩史に名を止めるに至った。

満鉄発足・・・1906=31歳：年来の作品をまとめて「晴小袖」として出版。四女誕生。

韓国反日暴動1907=32歳：漱石の推薦で、翌年にかけて{東京朝日新聞}に長編「空薫」を連載、

アラビヤ創刊・1908=33歳：{万朝報}に長編「露」を連載、

伊藤博文暗殺1909=34歳：長男が誕生。*作風に新たな境地を開くべく、{大阪朝日新聞}のため長編「雲影」の執筆中、感冒に侵され、一旦退院するも再発、肋膜炎となって、大磯に転地療養したが、

韓国併合・・・1910=35歳：_悪化して、没した。

美貌でもあって、漱石門に集まる弟子たちの気をひく存在であった。漱石の追悼句“有る程の菊揚げ入れよ棺の中”は有名である。歌集に「雪の日」、短編集に「晴小袖」「暁露集」がある。